



南条つ子

南条小学校だより

南条つ子は 進んで学ぶ子

R2.9.11 No.34

思いやりのある子

かいっぱいやりぬく子

目標 ともに学び 豊かな心で未来を切り拓く子の育成



○ブックトーク 6-2

9月10日(木)、6年2組が5年生にブックトークをしました。(6-1は実施済みです。)

ブックトークとは、あるテーマにそって、何冊かのさまざまなジャンルの本を順序だてて紹介することで、「その本が読みたいという気持ちを起こさせる」、「知らなかった本や知らなかった分野に出会える」、「本や読書の楽しさを知ることができる」という目的と効果があります。

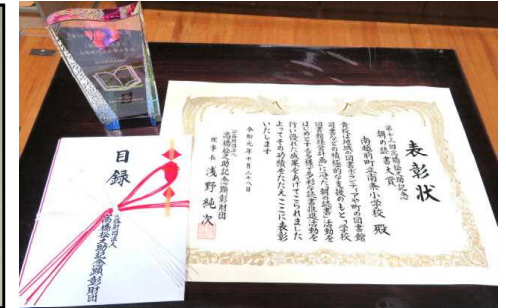
今回は、一人ずつ1冊の本を紹介しました。とても上手に紹介しており、どの本も読みたい気持ちになりました。また、話を聴いている5年生も、真剣な態度で聴くことができました。ノーテレビ・ノーゲーム・ノーネットに取り組んでいる週間でもあり、進んで本を読んでほしいと思います。



なお、今年度も学年に応じて、10冊ずつの「すいせん図書」が用意されており、10冊全部読み終えた児童には、校長室で読書賞を渡します。まだ、3年生の数名にしか読書賞を渡せていないので、「もっとたくさんの児童を表彰したい」と思いながら待っています。

○読書のすすめ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、例年行っている取組が十分にできていません。しかしながら、過去には、本校の読書活動に対し、平成29年4月に文部科学省から、令和元年10月に高橋松之助記念顕彰財団から全国表彰されています。



「あなたは読書が好きですか?」という質問をされたらどう答えますか? 年齢が上がるにつれて、「読書が嫌い」と答える人が増えてくるのかもしれませんが。そう答える人の中には、「読まず嫌い」の人がいるのかもしれませんが。ページ数が多いから読むのが面倒(時間がかかる)、文字が小さいから読みにくい、漫画じゃないからおもしろくないと思って、はじめから本を手にとらないような人のことです。本当は楽しかったり、感動して泣けてしまったりするような、ちょっとでも読み始めるとやめられなくなってしまいうような本がたくさんあります。

私自身の経験を振り返りますと、小学校2、3年生ぐらいの時に、『シートン動物記』のシリーズに夢中になり、その中でも特に『オオカミ王ロボ』をドキドキしながら読んだという記憶があります。50年近く前でしたので、その内容はほとんど覚えていませんが、本の名前だけはしっかり覚えていました。昨年、学校だよりでこのことを書いたのをきっかけに、約50年ぶりに読んでみたところ、やっぱり夢中になって読んでしまいました。

「読書は、頭と心の栄養」です。私たちは、本を読むことによって、いろいろな知識を身に付けて物知りになります。また、頭が良くなる(物知りになる)だけでなく、心も成長させてくれます。楽しい本を読んだり、うれしい本を読んだりすると、私たちも楽しさやうれしさを味わうことができます。逆に、悲しい本を読むと、悲しみが分かるようになります。そして、心温まる話を読むと、何だかとても優しく癒やされた気持ちになります。このように、私たちはいろいろな本に出会うことによって、いろいろな心や気持ちの体験をして、喜びや悲しみ、優しさなどが分かる人になれるのではないかと思います。

ところで、読書には、次のような効果があると思われます。

- ①語彙、言語能力が発達する
- ②集中力がつく
- ③想像力、感受性が豊かになる
- ④人の気持ちが分かるようになる
- ⑤ストレスの解消ができる

そこで、ご家庭での「親子読書」をすすめします。「親子読書」には、(1)親が子どもに、子どもが親に読んで聞かせる。(2)親子で同じ本を読んで感想を話し合う。(3)親子で読書タイムをもつ。(4)それぞれに読んだ本の感想を話し合う。など、いろいろな方法があるかと思いますが。お子様が小さい時には、熱心に絵本の読み聞かせをされていたのではないのでしょうか。読み聞かせは、小学生になっても効果的です。逆に、お子様に本を読んでもらうのも楽しいかもしれません。短時間でも構いませんので、ぜひ取り組んでいただけますと幸いです。

テレビやゲーム等ではなく、じっくりと活字に親しみ、想像力を働かせてほしいです。